

取りまとめ(案) 全体構成について

はじめに

1. 字幕放送の現状等

(1) 視聴覚障害者等に対しても健常者と同等のテレビジョン放送の情報を提供することが必要。字幕放送は、昭和 58 年にNHKが取組を開始。近年は字幕が付与された番組が増加。

(2) 字幕放送は、主に聴覚障害者や高齢者向け。近年は音声聞きづらい環境下において健聴者にとっても有用なものとして利用機会が増加。

(3) デジタル放送への移行が完了したことにより、「字幕」もその発展に向けて新たな取り組みが求められる。

2. 「字幕」をとりまく環境の変化

(1) 訪日外国人が増加する等、放送番組と連動する多言語字幕サービスの提供は「時代の要請」。

(2) 通信サービスと連携した放送サービスの導入が進展(スマートテレビ)。

(3) 高齢化社会の進展や訪日外国人の増加等、放送番組に対するユニバーサルアクセスの確保・向上は、社会的な要請。

3. 検討会における検討事項

こうした環境の変化を踏まえ、「多言語字幕WG」、「CM字幕WG」を設け検討を実施。

第1章 多言語字幕

1. 多言語字幕サービスの意義等
2. 多言語字幕サービス実現に当たっての基本的な視点
3. 多言語字幕サービス実現のための課題等
4. 提言



[資料3-1]

※多言語字幕WG主査より報告

第2章 字幕付きCM

1. 字幕付きCMの必要性・意義等
2. 字幕付きCMの現状等
3. 字幕付きCMの普及に向けた課題
4. 字幕付きCMの普及に向けた提言



[資料3-2]

※CM字幕WG主査より報告